

都道府県番号	6
都道府県名	山形県

【 レ 】

学校名及び規模

学校名	村山市立楯岡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	29
生徒数	134	126	160	3	423	

研究の概要

(1) 研究主題

「自分を知り，意欲を持って学び続ける生徒の育成」

(2) 研究主題設定の趣旨

学習指導要領が目指す「生きる力」の育成のために求められていることは，基礎・基本を確実に身に付けること。それを基に，自分で課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する能力である。「確かな学力」の向上は，生徒たちが主体的，創造的に生きていくために必要とされる力の育成でなければならない。

「確かな学力を身につけた生徒像」を

- ・自己の能力や特性を理解し，それを伸長したり補ったりしようと努力する生徒
- ・幅広い興味・関心を持ち，さまざまな学習に意欲的に取り組む生徒
- ・基礎・基本を身につけ，場に応じた思考・表現・判断ができる生徒
- ・疑問やつまづきを大切に，自ら学び自ら考え問題を解決できる生徒

とおさえ，その具現化を目指して，研究テーマを設定した。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

「必修教科」「選択教科」「総合的な学習の時間」の指導を「確かな学力」向上の柱とし，これらの学習指導と，学習を支える「教育課程編成」「学習指導」「教育環境整備」の6つの側面から部会を編成し，学校全体で新しい教育システムの構築を目指して研究をスタートさせた。

2年次には，「必修教科」「選択教科」の部会を中心に授業実践を重ね，「学習指導(学習指導，教育環境，教育評価)」HP作成，資料収集」部会で実践のサポートやデータ収集，研究の発信を行う体制とした。

(2) 研究の実際

教科指導では，「指導と評価の一体化」をキーワードに，授業研究会を実施した。単元の価値の分析と生徒の実態に応じた目標の絞り込み，単元構成の工夫を指導案に表現している。また，評価基準を指導改善に生かすものと考え，指導計画の中に評価基準Bと評価方法を明示した。

特に，数学と英語で少人数・習熟度別指導とT・T指導を行っている。少人数・習熟度別指導は，1・2・3年の数学と2・3年の英語で2学級を3クラスに編成して実施し，さらに3年数学では基礎コースにT・Tを導入した。初めの1単元か2単元を原学級でのT・T指導や機械的な少人数指導で行い，次の単元から習熟度別の授業を行う。数学科では単元の最後に原学級にもどして単元の確認のためのコース別学習や単元テストを行う。単元のねらいによって習熟度別指導と

原学級での指導を使い分けている。英語科ではいくつかの単元を習熟度別学級で学習したあと、1単元を原学級で学習する。原学級での学習を組み込むことで、自分のクラス選択の見直しや能力の違う生徒との交流ができる。

選択教科では、生徒の個性や必要感に応じた学習を目指している。そのため、個々の興味・関心を伸ばしたり、教科の面白さに迫る「課題学習」と、生徒が各自の必要感や願いに応じてカリキュラムをつくる「補充・発展学習」の2つの選択学習を行う。

「課題学習」(1年5教科、2・3年5教科と技能教科)では教科のねらいや魅力に迫るための課題を吟味し、「補充・発展学習」(2・3年5教科)では自分の力を客観的に評価して必要な学習について考える場を設定し、生徒の願いを生かしたカリキュラムづくりをしている。「生徒自身が主体的に学びを作る選択学習」によって、自分を見つめ目的を持って学ぶ意欲や力を育てることができると考えている。

(3) 研究の成果と課題

【成果】

- 各教科で単元テストや自己評価を活用して達成状況と意欲を把握する工夫が行われている。
- 習熟度別指導の実践を通して、効果的な学習形態や教材の吟味ができた。生徒の実態把握、目標の明確化がなされ、基礎・基本をもとにコースに応じて生徒の力が十分発揮される学習活動を工夫することができた。また、教科内の打ち合わせが密になり、常に生徒の実態把握と単元でつきたい力を意識して指導するようになった。教師が生徒一人一人の求めに応じることができ、活躍の場や支援の機会が増え、意欲が向上している。基礎コースでは意欲的な教え合い、発展コースでは、競い合い自信を持って発表する姿が見られた。途中で原学級に戻すことによって多様な考えが出にくい欠点も補える。
- 生徒(現2・3学年)の意識調査から、全体として授業を楽しんでいると感じ真剣に取り組む生徒が増えていることがわかる。学習活動が工夫され、生徒の思考・表現活動が引き出されている。

学校教育活動についてのアンケート結果

平成14年・15年6月全生徒に実施

項 目	14年→15年		
授業はわかりやすく楽しい A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない	A	13.2	20.0
	B	57.4	53.7
	C	25.8	24.1
	D	5.5	2.0
自分は、授業を真剣に受けている	A	29.2	36.7
	B	54.7	51.5
	C	16.3	10.1
	D	2.1	1.5
先生は、教え方にいろいろな工夫をしている	A	25.0	37.9
	B	52.9	46.3
	C	21.8	12.8
	D	3.2	1.7
授業では、様々な意見が出て考えが深まる	A	16.8	21.9
	B	37.9	44.3

	C	39.5	28.3
	D	7.9	5.2
授業で、自分の考えをまとめたり発表する機会がある	A	11.8	21.7
	B	37.4	44.6
	C	45.3	26.8
	D	8.4	6.9

少人数・習熟度別授業について	2学年		3学年	
	14年→15年		14年→15年	
よかった	63.7	76.5	63.6	71.0
どちらともいえない	34.5	23.5	25.9	25.2
よくなかった	0.9	0.0	2.8	3.9

- ・ 選択教科の運営方針が明確になり、「課題学習」では学習課題を吟味し、教科のねらいや魅力に迫るための学習を仕組んでいる。「補充・発展的学習」では、生徒が自分の必要感に基づいてカリキュラムを作り学習するシステムができ、自己分析のチェック表も改善が図られた。
- ・ 補充・発展的な選択では、生徒に自分の力を客観的に評価し必要な学習について考えさせる場を持たせることができた。必要感のある学習に取り組むことが意欲と集中力につながる。また、教科の学び方を知り、自分で学習する力や意欲が育った。ほとんどの生徒が達成感を感じており、「教科の楽しさがわかった」「苦手意識がなくなった」というコメントも多かった。

選択教科(補充・発展)の成果

3年生のアンケートから 123名(%)

目標の達成	達成できた	まあまあできた	あまりできなかった	全くできなかった
国語 15名	2 (13)	10 (67)	3 (20)	0 (0)
社会 25名	10 (40)	12 (48)	3 (12)	0 (0)
数学 24名	7 (29)	11 (46)	6 (25)	0 (0)
理科A 15名	4 (27)	10 (67)	1 (7)	0 (0)
理科B 15名	3 (20)	10 (67)	1 (7)	1 (7)
英語 29名	5 (17)	21 (72)	2 (7)	1 (3)
充実度	充実していた	まあまあしていた	あまりしていなかった	全くしていなかった
国語 15名	11 (73)	3 (20)	1 (7)	0 (0)
社会 25名	18 (72)	7 (28)	0 (0)	0 (0)
数学 24名	14 (58)	9 (38)	1 (4)	0 (0)
理科A 15名	8 (53)	6 (40)	0 (0)	0 (0)
理科B 15名	8 (53)	7 (47)	0 (0)	0 (0)
英語 29名	7 (24)	19 (66)	3 (10)	0 (0)

【課題】

N R T 偏差値の推移

	国語	社会	数学	理科	英語
H 1 5 1年時	5 4 . 5	5 4 . 5	5 3 . 3	5 6 . 7	
H 1 4 1年時	5 5 . 1	5 3 . 2	5 4 . 1	5 7 . 1	
H 1 5 2年時	5 5 . 9	5 8 . 2	5 4 . 7	6 0 . 3	5 2 . 3
H 1 3 1年時	5 5 . 9	5 3 . 9	5 3 . 9	5 8 . 0	
H 1 4 2年時	5 4 . 2	5 5 . 9	5 4 . 3	5 8 . 4	5 4 . 2
H 1 5 3年時	5 5 . 7	5 5 . 5	5 3 . 0	6 0 . 0	5 4 . 1

- ・平成14年度・15年度のN R Tの結果を比較すると、2学年の生徒は全ての教科で偏差値がアップしている。一方3学年の生徒は、伸びが見られない教科もあった。意欲面だけでなく、知識・技能・理解面の定着に、さらに力を入れていく必要がある。
- ・習熟度別指導では、教材・指導方法・目標と評価結果に関してコース間の交流を図る必要がある。また、生徒に自分の変化を実感させる具体的な手だても工夫したい。
- ・学習への取り組みや意欲については、学年による差も見られる。さらに教師一人一人の指導力の向上を図りたい。

(4) 研究成果の普及の方策

- ・校内授業研究会の公開
- ・HPでの研究紹介
- ・公開発表会(平成16年度)

(5) その他(その他特色ある取組等がある場合に記述)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
- 7～9学級 10～12学級
- 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
- 外国語 音楽 美術 技術・家庭
- 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

本校では、教科指導において、単元価値の分析と生徒の実態に応じた目標の絞り込み、単元構成を工夫し、授業改善を図っています。特に、数学、英語では、効果的な学習形態の教材の吟味、付きたい力、習熟度別の学習のねらいを吟味したカリキュラムづくり(焦点化)教材の内容をより精選し提示、単元全体を見通したプリントの作成、単元のねらいによって習熟度別指導と原学級での指導を使い分ける等など、習熟度別指導での効果的な指導法の研究と教材開発を推進しています。